

第1学年2組 道徳科学習指導案

平成30年11月30日（金）

第5校時 1年2組教室

在籍児童数 男子12名 女子 15名 計27名

授業者 林 美和子

1 主題 自分のよさ 内容項目 個性の伸長 A主として自分自身に関すること

2 本時のねらい 主人公に自分を重ねて心情を話し合い、体験的学習を通して、自分の特徴に気付き、長所を大切にしようとする心情を育てる。

教材名 ええところ （出典 くすのきしげのり「ええところ」学研教育出版・2012年）

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

小学校1年生及び2年生の指導の観点は、「自分の特徴に気付くこと。」である。この内容項目である「個性の伸長」は、中学年の「自分の特徴に気付き、長所を伸ばすこと。」高学年の「自分の特徴を知って、短所を改め長所を伸ばすこと。」へと発展させていく。

この時期の児童は、発達の段階から、自分自身を客観視することが十分にできるとは言えない。児童が自分の特徴に気付く契機となるのは、他者からの評価によることがほとんどである。このことから、他者との関係によって自分の特徴を知り、児童がそのことを自身で実感することによって、自分の特徴への気付きをより確かなものにしていくことが大切である。

指導に当たっては、児童の長所を積極的に認め、励まし、児童自身が具体的な場面で自分の長所に気付き、実感していけるようにする。

(2) これまでの学習状況及び児童の実態について

本学級の児童は、明るく穏やかな児童が多い。友達が困っていると自然と手伝う姿や声を掛けて助け合える優しさもある。友達のよさに気付き、クラス全体で認められる場面も多く見られる。

個性の伸長に対する取り組みとして、国語では、「音読」「動作化」「音読劇」「硬筆・書写」「漢字」「読んだ本を紹介する」等の活動の中で、算数では、「計算問題」「問題を解決する活動」「表現し伝え合う活動」「まとめ・ふりかえり」等の活動の中で、自分の特徴や友達の特徴に気付き実感することにより、よさを伸ばしたり理想に近づけようとしたりする意欲につながっている。また、生活科の「秋の遠足」や特別活動の「風の子まつり」等の行事をとおして、自分や友達のがんばりや感謝の気持ちをキラキラカードや掲示用カードにまとめ、個性の伸長につなげる取り組みを試みた。

児童に行った意識調査は、以下の通りである。

・自分には、いいところがありますか。	ある	73%	ない	8%	わからない	19%
・あなたは、自分のことがすきですか。	すき	81%	すきでない	4%	どちらでもない	15%

自分の得意なことや好きなことに対しては肯定的に捉えることができるが、自分の内面へ視点を移すと肯定的に捉える割合が減少する傾向が見られる。自分の「いいところ」という捉え方がどのようなものなのか分からない児童もいる。本時では、友達との関わりを通して、自分では気付かなかった自分の「いいところ」に気付き実感できるようにする。

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、主人公である「あいちゃん」は、自分には、一つも「ええところ」がないと思っている。しかし、友達の「ともちゃん」は、手が温かいという「ええところ」を見つけてくれた。更には、「みんなにやさしい」というすばらしい「ええところ」を見つけてくれる話である。

自分の「ええところ」に気づくことができた「あいちゃん」の気持ちの変化について考えるとともに、「あいちゃん」と「ともちゃん」のように友達との関わりの中から自分のよさを見つけることができるすばらしさも感じ取れるようにしたい。本学級の児童の実態を受け、主に次の場面を中心に話し合うことにする。

①「ええところ」が一つもないと思っていた自分に「手があたたかい」というよさを見つけてもらった場面。

ここでは、「ええところ」を見つけてもらえた喜びと同時に、「手があたたかい」ということでさえも「ええところ」と言えるのか、という驚きや新鮮さも感じとらせたい。

②「あたたかくない。というか、つめたいねん。」と言われてしまった場面。

ここでは、やっと見つけてもらえた「ええところ」がなくなってしまった気持ちに共感させる。

③「みんなにやさしいのが、あいちゃんのええところや。」と言われた場面。

ここでは、最初に見つけてもらった「ええところ」よりも更に嬉しいと感じた気持ちに共感させると共に理由も考えさせる。

4 研究主題との関わり

研究主題

自己肯定感を高める道徳教育～授業づくりを通して～

【仮説】

教材文を基に体験的な活動を取り入れて実感することができれば、価値項目である個性の伸長という心情が育まれ、自己肯定感は高まるであろう。

【手立て】

日常指導として、友達のよさを見つけて発表する機会を設け、掲示物を作成する。自分の良いところを客観的に知ることにより、自分では気付かなかった自分のよさにも気付かせたい。また、自分のよさに気付き、他者のよさも認める機会を、帰りの会、他教科の授業の中で意図的に設定する。そして、心が柔軟な低学年の時期に、日常の小さなことからでも自分のよさや友達のよさに気づく態度と豊かな心を育てたい。そして、言葉で伝え合い認め合うことの喜びを味わわせたい。

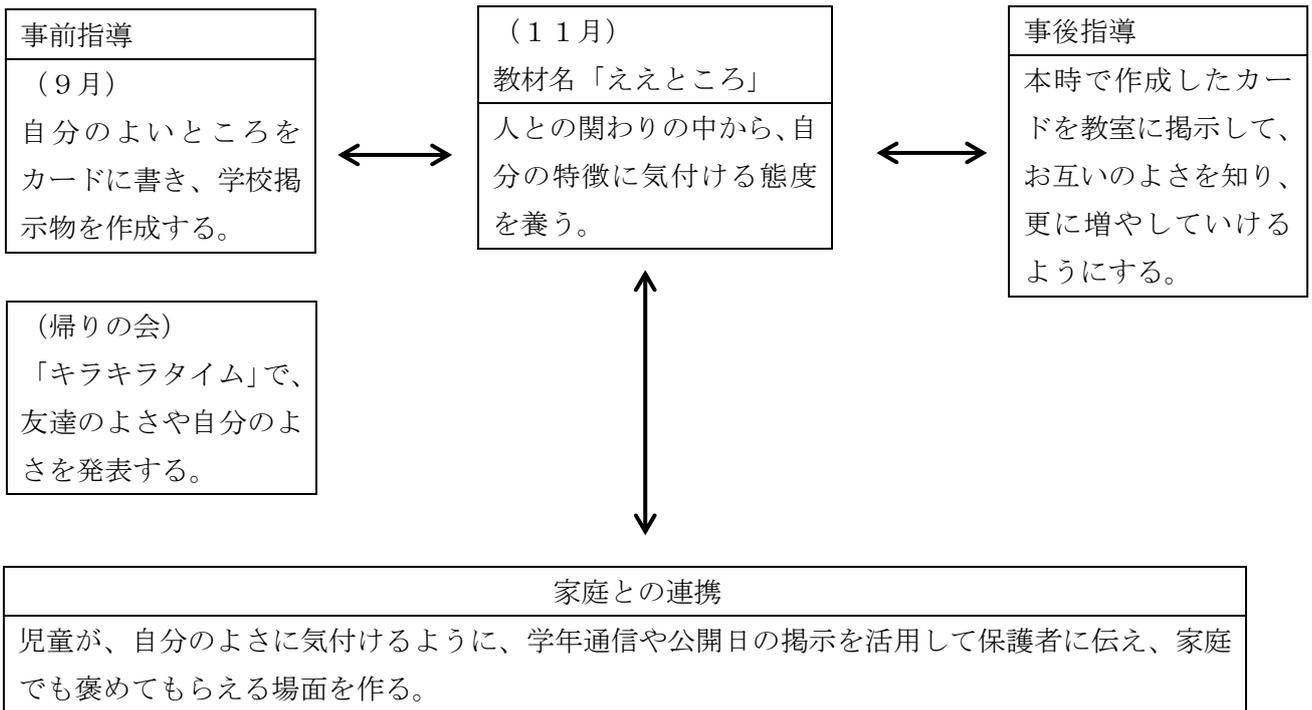
本時では、教材文を自分事としてとらえることができる様に、話し合いと体験的な活動を組み合わせた学習を展開する。「自分のよいところ」＝長所に気付かせることを、「人との関わり」の中から気付かせるようにする。

5 学習指導過程

段階	学習活動・主な発問	予想される児童の発言	指導上の留意点 ☆評価の視点
導入	<p>1 道徳的価値を自分事として捉える。</p> <p>○ 今日は、みんなと同じように自分の「いいところ」ってどこだろうと考えているあいちゃんのお話です。</p>		<ul style="list-style-type: none"> 自分の「いいところ」について考えた事前の活動を想起して、教材への関心を高めるようにする。
展開	<p>2 教材「ええところ」の読み聞かせを聞き、あいちゃんの心の変化を中心に話し合う。</p> <p>○ 「ええところ」がないってどんな気持ちでしょう。</p> <p>① ともちゃんが、「ええところ」を見つけてくれた時、あいちゃんはどんな気持ちでしょう。</p> <p>② ともちゃんに「あったかくない。というか、つめたいねん。」と言われたあいちゃんは、心の中で何と言っているでしょう。</p> <p>③ ともちゃんが「いちばんええところ」を見つけてくれた時、あいちゃんは、心の中でどんなことを思ったでしょう。</p> <p>3 ペアになって、お互いに友達の「ええところ」を伝え合い、自分の「ええところ」を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・悲しい。 ・さみしい。 ・いやだなあ。 ・私にも「ええところ」があつてよかった。 ・嬉しい。 ・ありがとう ・なんで気付かなかつたんだろう。 ・悲しい。 ・くやしい。 ・また、なくなっちゃった。 ・また、「ええところ」を見つけてくれた。 ・他にも「ええところ」があつたんだ。 ・嬉しい。 ・今度は、なくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材文は、教師が黒板に掲示しながら読み聞かせをして、場面ごとに話し合いを持ちながら進めていく。 ・喜びや安堵の気持ちを持たせるようにする。 ・手が温かいという事でも、よさとして捉えていいという驚きや新鮮さも感じとらせたい。 ・役割演技を取り入れて、場面を理解させると共にあいちゃんの落胆した気持ちに共感させるようにする。 ・役割演技を取り入れて、あいちゃんの気持ちを考えさせるようにする。 ・体験的活動を通して、自分の新たなよさに気づいたり、再確認したりして、実感できるようにする。

終 末	4 友達が見つけてくれた「ええところ」を基に、自分の「ええところ」を考えましょう。		<ul style="list-style-type: none"> ・書く活動を取り入れ、自分のよさについて考えさせる。 ☆自分の「ええところ」に気付くことができていたか。 ・これから、自分のよさを見つけていく意欲を持てるように余韻を残して終わりにする。
--------	---	--	---

6 他の教育活動との関連



7 評価の視点

【自己をみつめる】

- ・友達が教えてくれた「ええところ」を基に、自分の「ええところ」を見つけようとしている。

8 板書計画

みんなの「ええところ」は、どんなところかな。ともだちどうして、みつけてみよう。	場面絵③ ◎また、みつめてくれた。 ◎ほかにもあった。 ◎うれしい。	みんなにやさしいのが、あいちゃんのいちばんええところや。	場面絵② ◎よかった。 ◎うれしい。 ◎なんできづかなかったんだろう。 ◎かなしい。 ◎くやしい。 ◎また、なくなっちゃった。	場面絵① ◎かなしい。 ◎さみしい。 ◎いやだなあ。	ええところ いいところ あいちゃんので、すごくあったかい。
---	--	------------------------------	--	--	-------------------------------------